

## 第3回国際学術フォーラムが開催されました！

「仏教ソーシャルワーク」と「国際ソーシャルワーク」への挑戦



アジア国際社会福祉研究所は、2017年最後を「ハノイ仏教ソーシャルワーク専門家会議」(ベトナム・ハノイ)で締めくくったあと、2018年1月20日に開催された第3回淑徳大学国際学術フォーラム「国際ソーシャルワーク教育カリキュラムはいかにあるべきか」(東京・品川)で、2018年の活動をスタートさせました。

「仏教ソーシャルワーク」作業定義策定に向けて

ハノイの専門家会議では、ベトナムのほかタイ・スリランカ・ネパール・ブータンからも参加者が集い、仏教ソーシャルワークのフレームワークと定義が検討され白熱した議論が展開されました。また、11月末に発行された叢書”From Western-rooted Professional Social Work to Buddhist Social Work: Exploring Buddhist Social Work” (Research Series No.0)と”Vietnam Buddhism: From Charity to Buddhist Social Work” ((Research Series No.2)の世界への発表です。ベトナム国立社会科学人文大学(ハノイ)のトゥン・トリン学部長とグエン・ホイ・ローン教授をはじめ参加者全員に、淑徳大学との共同プロジェクトの成果であるこれら2冊の書籍が手渡されました。

## 「国際ソーシャルワーク」研究の新たな挑戦



2018年1月20日、日本ソーシャルワーク教育学校連盟・日本ソーシャルワーク学会との共催で第3回淑徳大学国際学術フォーラムが開催されました。フォーラムでは長年にわたって国際ソーシャルワーク研究を牽引してこられたリン・ヒーリー氏(コネティカット大学名誉教授)とアジア太平洋ソーシャルワーク教育学校連盟(APASWE)会長ズルカルナイン・ハッタ氏をお迎えし、国際ソーシャルワークの概説およびカリキュラムについて講演していただきました。さらに国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)現会長アナマリア・カンパニーニ氏が、祝辞として淑徳大学を含む日本の加盟校に対しより一層の連帯を期待すると述べられました。また、荻野剛史氏(東洋大学准教授)より「日本の社会福祉養成課程における国際ソーシャルワークカリキュラムの位置付け」についてお話しいただきました。



参加者からは国際ソーシャルワークのカリキュラム開発・教員養成に向けた取り組みが提案され、本フォーラムを企画した淑徳大学アジア国際社会福祉研究所への好意的なご意見が多く寄せられました。

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。